

◆◆キャプションカードを見てみよう、作ってみよう◆◆

キャプションカードの実物見本を見てみましょう。

施設内を見てまわり、写真を撮影します。

撮影した箇所が ○、×、?! のいずれか、○で囲みます。

撮影年月日を記入します。

だれにとってか、○をつけます。

「どのようなことが」…何に注目したかを簡潔に記入します。  
例：「ケアステーションと向い合わせに置かれたいすの配置が」というように…

「どのように感じたか、思ったか」…感じたこと、思ったことを簡潔に記入します。  
例：「病院の待合室のようで殺風景だ」というように…


思いつく工夫を書いてみましょう。簡単にできそうなことから大がかりなことまで、どのような方法・手段でもかまいません。アイデアの見せどころです。

撮影場所を記入します。

PEAP日本版3のどの次元のどこかを選び○をつけます。(重複可)

他に何かコメントがあれば何でも記入します。

NO. 150



撮影日時 2002年 7 月 日  
 誰にとって (○をつける) 利用者 その他  
 施設名 介護ステーション  
 ~ということが ナースステーション前ホールの配置  
 ~と思った 病院の待合室のようで、とても妙な印象ですが、利用者さんには使われてこんな工夫出来るかも... (30分程度)  
 コメント 使われてもう少し調べたい

撮影場所: 特養 デイの 介護ステーション前

「PEAP日本版3」の次元 1・2・3・4 ○5・6・7・8・その他

さあ、あなたも、あなたの施設でいっしょに環境整備に取り組むケアワーカー、入居者自身、入居者の家族に呼びかけて、あなたの施設でキャプションカードを作ってみましょう。

カードの書式は本書の巻末に付けてあります。コピーして利用してもよいでしょう。

また、裏面にキャプション評価法に参加した評価者のプロフィールをとり、写真と対応できるように整理をしておくともよいでしょう。

(キャプションカードの書式は巻末にあります。参考にしてください)

■□■キャプション評価法を詳しく知りたい人のために■□■

- ・小島隆矢氏、古賀蒼章氏、宗方淳氏らにより提唱されたものである。
- ・『よりよい環境創造のために 環境心理調査手法入門』日本建築学会編 2000年 技報堂出版

# STEP2 つづき

## —環境課題を抽出する—

### 5 キャプション評価法による課題の抽出

それぞれの評価者がカードを作り、多数のカードができあがりました。

次は、「カードの共有と集計・検討」の段階に進みます。

#### ◆◆キャプションカードを共有する◆◆

よく用いられる方法は、掲示です。一度に多くの人が同時に、話し合いながら、見ることができます。掲示をする際に、場所別、評価者別、PEAP日本版3の次元別など、いろいろな切り口で整理して掲示するとよいでしょう。8次元以外の建築構造や設備、使いにくさ、整理整頓などの使い方の課題も多く抽出されています。例えば、場所別に掲示して、「廊下」に多くの×カードが集まっているとすれば、施設の環境の中で廊下に課題があることが見えてきます。

共有の方法は、掲示だけでなく、「アルバムにして回覧する」「パソコンに取り込んでオンラインで共有する」など、いろいろ考えられます。また、カードを見た人のコメントを書き加える方法もおもしろいでしょう。

#### ◆◆カード情報を集計してみる◆◆

施設の環境の課題を明確にする手段として、「カード情報を集計する」という方法があります。

ここでも、PEAP日本版3の次元別、場所別、評価者別など、さまざまな切り口で集計すると、課題が見えてくるでしょう。

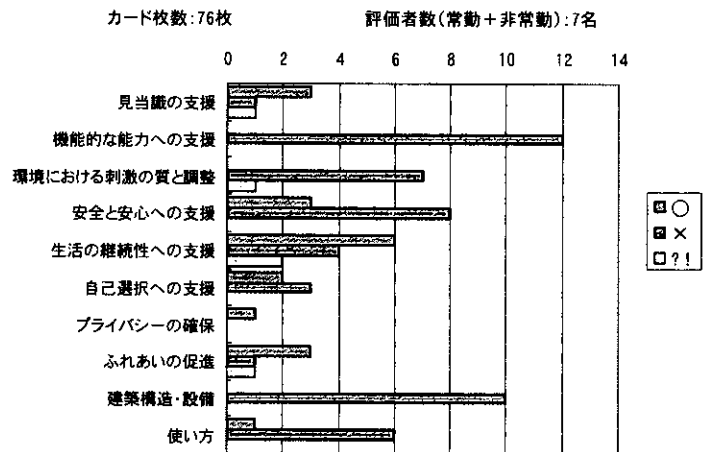
また、評価する際には、長所にも注目することが大切です。

#### ◆◆カード情報からコメントを整理する◆◆

キャプションカードの評価を、件数として数えるだけでなく、コメントを整理して、環境づくりの手がかりとなるキーワードを抽出する方法も実施してみましょう。キャプション評価法では自由な記入をできるだけ活かす整理が有効です。コメントをPEAP日本版3の次元別に整理してみるのもよいでしょう。

【事例】特別養護老人ホーム「たちばなホーム」(東京都墨田区)ではキャプション評価から右の表のようなキーワードを抽出した。→

介入前の施設環境への着眼点 キャプション評価法



#### 【事例】キャプション評価から抽出された6つのキーワード

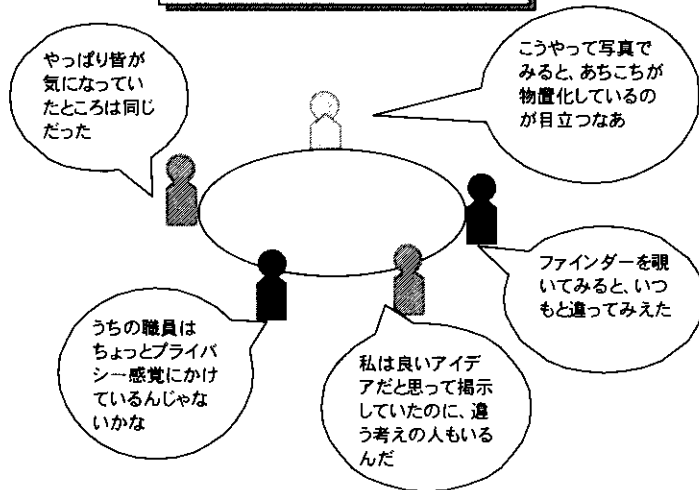
<b>多様な交流を支える環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 談話コーナーは使われていないことが多い</li> <li>・ いすがたくさん置かれているが、ここに座りたいという魅力に欠ける</li> <li>・ ベランダの花づくりは良い話題になるだろう</li> </ul>
<b>プライバシーへの配慮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食堂でのミーティングはプライバシーが守られない</li> <li>・ フロアにある電話は落ち着いて話をすることができにくい</li> <li>・ リネン室扉の掲示物は、プライバシーが守られていない</li> <li>・ 家族宿泊室は家族とのつながりやプライバシーを保つことができる</li> </ul>
<b>事故の予防と安全の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エレベーターの操作板や階段の電気鍵は、入居者を制限している。</li> <li>・ 見通しが悪く見守りにくい</li> <li>・ 低床ベッドで転落防止に役だっている</li> <li>・ トイレは片側にしか手すりがない</li> </ul>
<b>快適な環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ステーションのカウンター上に物が置かれて清潔感がない</li> <li>・ 掲示物がテープでとめられている</li> <li>・ 食堂の隅が物置化している</li> <li>・ 廊下の手すりは手触り良い</li> </ul>
<b>生活を取りまく雰囲気</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居室に永年愛用のタンスが持ち込まれたり個人のライフスタイルを尊重するしつらえ</li> <li>・ 季節感のない殺風景な食堂</li> <li>・ 曇りガラスが使われ、景色が見えない</li> <li>・ 病院のような単調な廊下</li> </ul>
<b>入居者と介護者にとって使いやすい環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浴室の入り口が狭い、リフトなどの設置場所が使いづらい</li> <li>・ 壁の飾りや写真の位置が高い</li> <li>・ 掲示物の字が小さい</li> <li>・ 洗面台が高すぎる</li> </ul>

◆◆総合評価をしてみよう◆◆

キャプション評価法からカードの掲示、閲覧等による情報の共有、集計・分析等による課題の抽出を行ってきました。以上を踏まえて、総合的に評価してみましょう。

施設のケアワーカー、環境改善に取り組むチームメンバーが集まって、学習会、検討会を持つのも、課題を共有するために有効です。

キャプション評価結果を話し合おう



◆◆行動につながる課題の整理◆◆

課題を共有したら、次は、行動につながるように課題を整理しましょう。

次のような柱建てによって分類すると、起こすべき行動が見えてくるでしょう。

課題整理の柱建て(例)

- ・全体で取り組むことはなにか？
- ・プロジェクトチーム単位で取り組むことはなにか？
- ・すぐに改善する必要があるのはなにか？
- ・計画的に取り組むことはなにか？
- ・費用や時間をかけず、少しずつできることはなにか？
- ・大がかりな工事や備品の購入などが必要なことはなにか？
- ・ケアワーカーだけでできることはなにか？
- ・協力者を巻き込んで取り組むことはなにか？

整理に当たって、優先順位を協議し、実現に向けた話し合いにしていくことが大切です。

**STEP3** ~ **STEP5** は、実際に施設のグループケアの中で環境改善に取り組むための実践方法を、事例を通して紹介します。あなたの施設に当てはめて考えながら、学習してください。施設環境づくりの事例について、詳しく知りたい方は、参考文献5をご覧ください。

# STEP3

## —環境改善計画を考える—

…小グループケアでの環境改善を実現するため…

### 6 取り組みチームづくり

課題整理の過程で、小グループケアでの環境改善への取り組みとして行う場合について、具体的な進め方を学びましょう。施設全体として取り組む大がかりな改善や工事や大規模な備品・設備の変更を必要とせず、小グループケアの単位（例えばユニット、フロアなど）でケアワーカーが日常の業務の一部として行う環境改善を例にとっています。ケアの単位で行う場合についてわかれば、それを基本として、さらに大規模な取り組みや、より小さな単位での取り組み、個人的取り組みの場合にも応用できるでしょう。

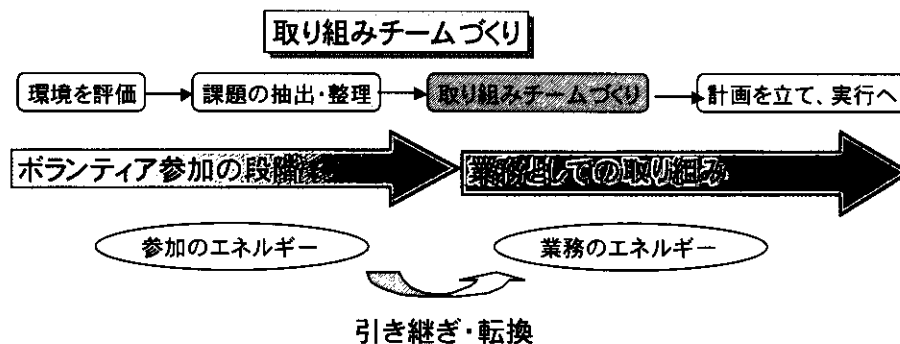
#### ◆◆環境づくりを推進するチーム形成◆◆

キャプション評価法という参加型の方法をとり、評価者として参加したケアワーカーが話し合いをして課題を整理してきましたが、ここまでは「自由参加」「ボランティア参加」として取り組んでいました。

いよいよ改善計画を立て、実行に移していく段階になってくると、「ボランティア参加」で進めていくことには限界があります。環境改善は、業務として位置付けられ、ケアワーカーの仕事の一環として取り組まれることが必要です。このように業務の一部という位置づけがあってこそ、環境改善からケアの質の向上へとつながっていくのです。

この「ボランティア参加段階」から「業務段階」への移行で大切なのが、「業務命令」「指示」のようなトップダウン方式ではなく、一人ひとりのケアワーカーの発見と発想から生まれるボトムアップ方式で取り組まれることです。キャプション評価法で「参加型のおもしろさ」を感じ、気づきや発見があり、課題を抽出して整理するところまでの「参加のエネルギー」をうまく育てて、「業務のエネルギー」に転換することが大切です。

小グループケアの単位（ユニットやフロア）は、日頃からケアチームとしてまとまっており、環境改善がケアに及ぼす影響も直接的に感じとれます。このケアチームを環境改善のチームとして、取り組みチームを作ります。「私たちがよりよいケアをするために環境改善をしよう！」という意欲を、チームで共有して取り組むことが大切です。



### 7 チームで課題を整理する

チームで取り組む進め方を、事例を通して見ていきましょう。

ここでは、実際に取り組んだ施設の事例を一部編集・構成した事例を使って、手順に従って説明します。

【事例について】以下に紹介する取り組みの事例は、特別養護老人ホーム「たちばなホーム」で実際に行われた取り組みをもとに編集・構成したものです。

◆◆私たちの小グループケア単位（ユニット、フロア等）の環境課題はここにある◆◆

取り組みチームのメンバーであるケアワーカーが日常、ケアを行う環境について、話し合い整理してみました。

課題のある箇所	なぜそう思ったか
① 食堂	食堂奥に、普段使用しないイスや車いすが雑然と置かれていて、見栄えが良くない。食事をする場所なのに、クラブ活動の道具が置かれ、衛生的でない。テーブルが多目的に使用されるため、シミがついて食事をする環境にふさわしくない。奥にある本棚が十分に活用されていない。ゆっくりと食事をする雰囲気ではない。
② 廊下、エレベーターホール	廊下が殺風景で冷たい感じ。廊下のソファが活用されていない。献立表など掲示の仕方が見栄えが良くない。エレベーターホールに洗濯干しや車いすが雑然とある。エレベーターホールはこのユニットの玄関としてもう少し温かみが欲しい。
③ 介護ステーション	乱雑に物品が置かれている。廊下から中が丸見えで、利用者の個人的な書類が見られている可能性がある。
④ 居室	居室の名札が小さくて、面会者にわかりづらい。利用者によっては、衣類が山のようになっていて、整理整頓されていない。ベッドや家具の位置はその方にとってベストなのか？ 居室の掲示物が、テープなどで簡易的にとめられていて見栄えが良くない。

いちばん論議されたことは

食堂、エレベーターホール等のオープンスペースの有効活用と改善について

環境づくりをするにあたり、このユニットで大切にしたいことは

- \* 食堂での食事をするという雰囲気づくり
- \* ユニット全体に家庭的な温かさを感じられるムードづくり

8

環境改善計画の作成

次に、どのように改善するのか、改善案をつくり、それを実現するための改善計画を作りました。手順にそって進めていきます。

改善案・改善計画づくりの手順	考えた内容		
	食堂	居室	エレベーターホール・廊下
① 改善案を作成するにあたっての基本方針を決める	食事をするという衛生的かつ施設共有スペース（クラブ、行事等）の確保	整理整頓、本人の家である雰囲気づくり	落ち着きとユニットの窓口・玄関と感じられるスペース
② この改善によって期待されるケア上の効果	落ち着いて食事がとれる。また、少しでも家庭的な雰囲気になれる。	“自分の部屋・家”という強い思い入れ	今まで素通りしていた空間が、ふと立ち止まり他者とのふれあいの場になる
③ 改善案をまとめる	<p>&lt;パーテーション&gt; 食堂奥にラティスを置き、物置の目隠しにする</p> <p>&lt;食堂正面の窓&gt; 障子作りにして、冷たい感じを取り除く</p> <p>&lt;入り口右側の鉄戸&gt; 布をたらし、ペンキを塗り、予定表等の掲示物をきれいに見やすいようにする</p> <p>&lt;本棚&gt; 移動して、空いたスペースに和風の棚を置き、間接照明を設置する</p>	各居室の整理整頓を行い、居室入り口に表札をつける	食堂にある本棚を廊下の一部に移動し、読書コーナー、談話スペースを設ける 廊下に四季の絵、(利用者と制作)・日常生活の写真を貼る
④ 改善計画の作成	<p>&lt;作業内容&gt; クロスを購入 ラティスの購入と設置 ロールカーテンの購入と設置 掲示板の作成</p> <p>&lt;予算措置&gt; ラティス@13800×4 布@38×750</p>	<p>&lt;作業内容&gt; 各居室の整理整頓 表札の制作</p> <p>&lt;予算措置&gt; マグネットフック@100×10 額@620×10</p>	<p>&lt;作業内容&gt; 読書・談話スペースづくり 四季の絵、写真額の作成</p> <p>&lt;予算措置&gt; タイルカーペット@498×9 スタンド@3980 額@5000</p>

「どのようなケアを行いたいから出発する」

痴呆性高齢者にとって良い環境は、他の高齢者にとっても暮らしやすい環境である、と考える

現実的に実践可能な計画案を作る「予算」「期間」「人手」「範囲」

取り組みはボトムアップですすめる

# STEP4

## —実施計画を実施する—

### 9 実施計画の作成と実施

改善計画を実践するにあたって、実施計画を作ります。実施計画を作る目的は、「なにを」「だれが」「いつ」「どのように」受け持つのかを明らかにしておくことです。計画を表にして書き出すと、作業の流れがはっきり見えます。取り組み事例のチームは、下の表のような実施計画を作りました。STEP3の改善計画の表と見比べて、どのように具体化していくのかを参考にしてください。

環境改善実施計画案

項目	作業内容 (打合せ・下見・買い物・片付け・製作・その他作業等)	業務計画				実施記録		
		実施日時	人手応援の必要人数	時間外発生	車等使用物品	実施日時	作業実施者	その他撮影有無等
食堂内の本棚、ソファの移動	食堂内奥にある本棚、廊下にあるソファ(2個)を介履ステーション前に移動させ、図書スペースをつくる		なし	なし	なし	2月21日 10時30分～ 12時30分	山田・川野 (仮名)	
食堂奥の整理整頓	食堂奥の車いす、いす、クラブ用具等の整理整頓を行う		2～3名		なし			
ラティスの配置	ラティスを業者から配送後(注文後10日前後で配達とのこと)食堂奥に設置する		2～3名		なし			
居室の表札づくり	各利用者に、事前に表札の細かい作り方の打合せ(写真・絵・名前の字体等)後、表札を設置する。(2週間程度費やす予定)				なし			利用者の嗜好の調査、作成までに2週間、実際の設置は1日
食堂入り口の壁に絵を飾る	絵(1m×1.5m)が届き次第、壁に設置する		2～3名		なし			
図書スペース	先に、カーペット、間接照明の設置(ドイツ南砂店に商品をとりに行き)		2名		なし			
食堂	食堂入り口右側の鉄の扉部分に、布をかける(2か所)(〇〇スーパーマーケットに商品を取りに行き次第)		2名		なし			

環境改善実施計画書② 物品購入計画

購入品	金額	購入方法	支払い方法
ラティス	13,800×4コ=57,960(税込) 送料=2,000円(税込)	△△通信販売に 電話で注文、配送	注文後1～2週間後に届く 代金引換払い
①表札用の額	820円×10コ=8,200	□□日曜大工材料店へ電話 し注文 同店へ取りに行く	物品を取りに行った際に 店頭で支払い
②タイルカーペット	498円×5コ=2,490(黄緑) 498円×4コ=1,992(青)	"	"
③フロアスタンド	3,980円×1コ=3,980円	"	"
	①②③小計 16,662 税 833 計 17,495円		
マグネットフック (表札用・布田)	100円(2コ入り)×13コ=1360 (税込)	100円ショップで購入	店頭で支払い

# STEP5

—改善した環境を使いこなす—

## 10 ケアプラン・生活プランに取り入れる

環境改善をしたら、その改善をケアプラン、生活プランに取り入れます。改善計画を立てるときに、「どのようなケアを行いたいのか？」からスタートしたのですから、環境が改善されたことによって、ケアが変わることにつながります。事例の中では、環境改善によってケアワーカーの関わり方が変わるところまでを順を追って見てみましょう。

改善前



改善前、介護ステーション前の廊下のソファは、病院の待合室のようで殺風景だった。そこに座ってゆっくりしたい気持ちにならなかった。

改善後



ソファを介護ステーションに直角向きに向かい合わせに置き、間接照明を設置、ゆったりとくつろげるコーナーができた。廊下を歩いて来て、ふと立ち止まってゆっくりしたい気持ちになる空間ができた。ソファの近くに本棚を置き、雑誌の表紙や美空ひばりの写真を見えるように置いた。

環境改善でケアも変わった



環境改善は、物理的環境の整備だけではない。ソファに入居者が座っていたら、ケアワーカーが並んで座り、美空ひばりの話を少しする、など、声かけの機会が増える。PEAP日本版3の第8次元「ふれあいの促進」が改善された。

## 改善した環境の維持・見直し

環境改善は、1度行えばずっとそのままでもよい、というものではありません。

日々のケアの中での環境の使いこなしに従って、乱れる、汚れる、傷むといったことが起きてきます。こまめなメンテナンスが必要です。……掃除、片付け、クロスの洗濯、修繕、取替え

また、一定期間が経過したら、見直しも必要です。

見直しの理由は、……飽きる、季節が合わない、入居者の状態が変化する など

例えば、

PEAP日本版3の第5次元「生活の継続性」第8次元「ふれあいの促進」実現を図り、和室にこたつを置いてくつろげる空間を作った。

4月からは、こたつのふとんを取り除き、テーブルクロスに変更する。夏はテーブルの下にゴザや竹カーペットなどを敷き、涼しさを演出。→季節に合わせて変更しながら、PEAPの5、8次元の環境を維持。

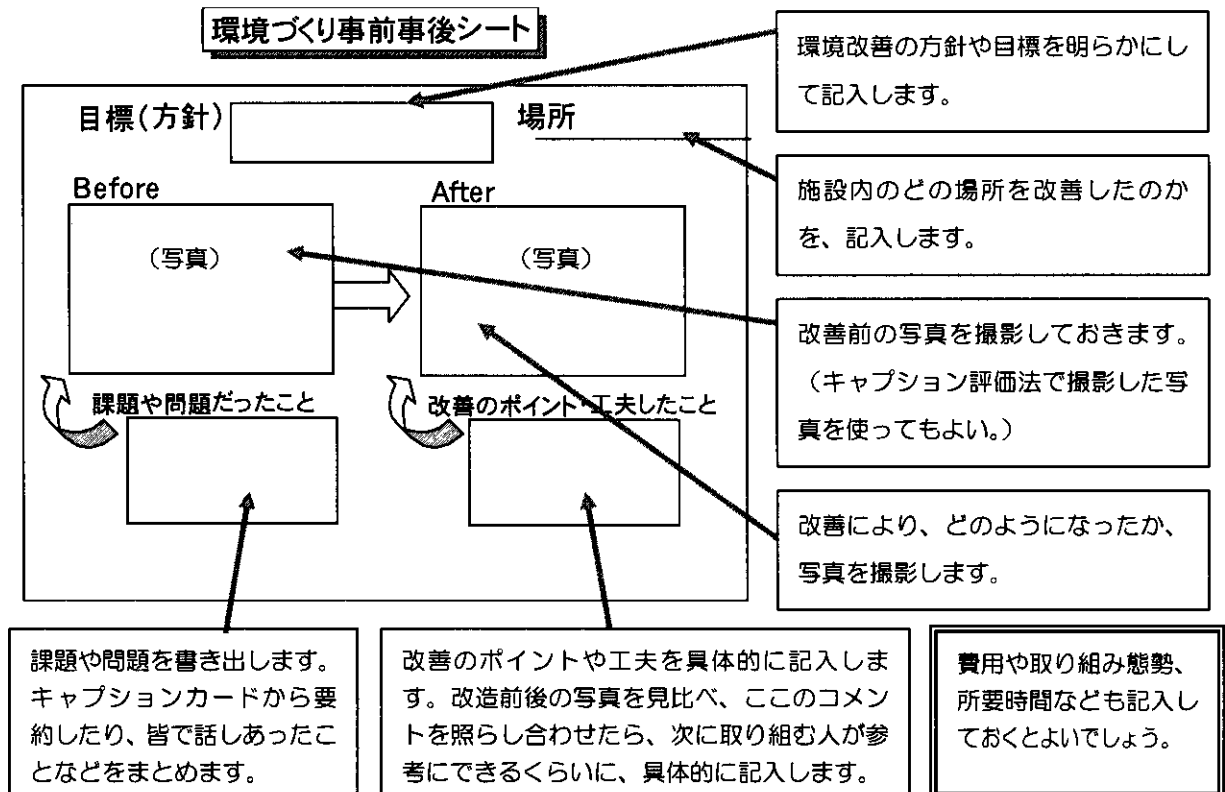
変えるもの、継承するものを選択。入居者の混乱を防ぐために、変えてはいけないものもあります。チームのケアワーカーが変わっても、環境改善の考え方を明確に引き継ぎ、継承し、良い環境を維持することが大切です。

# STEP6

## —環境づくりの効果を確かめる—

### 1.2 環境づくりを記録する

環境づくりの効果の評価の第一歩は、環境づくりを記録することから始まります。どこがどのように変わったか、改善前と改善後の写真をとって、記録しましょう。下に記録用紙のひな型を示します。



### 1.3 評価の方法

取り組みの記録をとったら、それを使って、自己評価、施設内の取り組みチーム以外のケアワーカーやその他の職員の評価、利用者、家族の評価、その他の第三者評価など、さまざまな評価をしてみましょう。

取り組みを広く知ってもらうための「発表会形式」の評価は、取り組みチームのケアワーカーやこれから取り組むケアワーカーなど、スタッフの参加意識を高め、成長につながるという長所があります。

### 1.4 取り組みの評価

環境づくりに参加したケアワーカー自身が、取り組みのプロセスを評価するために、以下に示すチェックリストなどを活用する方法もよいでしょう。

16 ページの表は、『取り組みのプロセスの評価』チェックリストです「準備期」「実施期」「実施後」の段階の諸項目について取り組んだケアワーカー自身の感想をチェックするものです。

17 ページの表は、『痴呆性高齢者施設環境配慮尺度(実施度)』をチェックするためのリストです。改造前後の環境配慮の状況をチェックして、結果を次元ごとに集計するなど、分析することができます。

18 ページの表は、『個別対応配慮チェックリスト』です。改造前後に行い、比較するのもよいでしょう。



## 取り組みのプロセスの評価

環境づくりの振り返りをしたいと思います。それぞれの項目について、  
いずれか1つ、あなたの感想に近いものに○をつけてください。

＜準備期＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
1) 環境的課題に関心を持って見つけたり考えたりすることができた	5	4	3	2	1
2) フロアごとの環境課題を決める際、自分の意見を出すことができた	5	4	3	2	1
3) フロアごとの話し合いでは、メンバーひとりひとりの意見を出し合うことができた	5	4	3	2	1
4) フロアごとの環境改善計画は、利用者の視点からも検討した	5	4	3	2	1
5) 作成された環境改善計画は、納得できるものだった	5	4	3	2	1
6) 環境改善計画は、思い付きでなく目的や効果を踏まえて作成することができた	5	4	3	2	1
7) 計画案について、上司や管理者、専門家など周囲から助言を得て進めることができた	5	4	3	2	1
＜実施期＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
8) 改善の実施にあたっては自分なりに関心を持って主体的に関わることができた	5	4	3	2	1
9) 実施にあたっては利用者に説明するなどの配慮を行った	5	4	3	2	1
10) 計画したイメージどおりの実施ができた	5	4	3	2	1
11) 環境づくりをすることで業務負担が増えない配慮がなされた	5	4	3	2	1
＜実施後＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
12) 自分は改善した環境を使いこなして(活用して)いる	5	4	3	2	1
13) 利用者は、改善された環境を使いこなしている	5	4	3	2	1
14) 訪れる家族は、改善された環境を活用している	5	4	3	2	1
15) 環境づくりの実施前と実施後で、環境に対して関心が高まった	5	4	3	2	1
16) 一連の環境づくりは楽しかった	5	4	3	2	1
17) 機会があればもう一度取り組んで見たいと思う	5	4	3	2	1

### 痴呆性高齢者施設環境配慮尺度(実施度)

この調査票に、痴呆性高齢者への環境配慮の実施状況をご記入ください。記入は、取り組み単位(ユニット、フロア等)ごとをお願いいたします。

記入年月日: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

記入者: \_\_\_\_\_ (チーム・ユニット・フロア: \_\_\_\_\_)

問: 痴呆をもつ入居者に対して、次のような環境配慮をどの程度実施していると、あなたは感じていますか。以下の項目について、「4 かなり実施されている」～「1 全く実施されていない」のいずれかに○印をおつけください。

		4 かなり 実施され ている	3 まあま あ実施 されて いる	2 あまり 実施さ れてい ない	1 全く 実施さ れてい ない
安全と安心への支援	(1) 廊下や共用空間にいる痴呆のある入居者を、職員が見守りやすいような建物の構造になっている	4	3	2	1
	(2) 痴呆のある入居者のいる建物の出入り口は、職員が自然な形で監視しやすくなっている	4	3	2	1
	(3) ぶつかって転倒の原因となるようなカートや椅子などを、廊下に置かないようにしている	4	3	2	1
	(4) 滑りにくく、転倒してもけがをしないような床の材質になっている	4	3	2	1
	(5) ぶつかっててもけがをしにくいように、家具やカウンターの縁が丸くなっている	4	3	2	1
	(6) 安全に介護をするために、トイレには十分なスペースが確保されている	4	3	2	1
見当識への支援	(7) 居室やトイレなどの位置を分かりやすくするために、サインや絵などの目印を用いている	4	3	2	1
	(8) 痴呆のある入居者が、時間経過を分かるように、カレンダーや時計などを意図的に飾っている	4	3	2	1
	(9) 痴呆のある入居者が、その空間で行われる活動を思い起こしやすいように、家具やもので演出をしている	4	3	2	1
	(10) 自分の部屋をわかりやすいように、インテリア(ベッドカバー、カーペットなど)に変化をつけている	4	3	2	1
	(11) 痴呆のある入居者が時間的な感覚を持てるように、時間的な目印となる活動を設けている	4	3	2	1
	(12) 痴呆のある入居者が、迷わずに方向感覚を持ちやすい廊下のつくりになっている	4	3	2	1
機能的支持能力	(13) 居住者の生活空間や生活単位を少人数にグループ化している	4	3	2	1
	(14) トイレを各居室に設けている	4	3	2	1
	(15) 食堂やダイニングなどの共用空間に近接して共用トイレを設けている	4	3	2	1
	(16) シャワーや入浴設備を居室に設けている、または家庭的な小規模の浴室を設けている	4	3	2	1
	(17) 入居者が使いやすいような洋服ダンスが居室内に置かれている	4	3	2	1
	(18) 痴呆のある入居者が利用できる台所を設けている	4	3	2	1
環境刺激への配慮	(19) 痴呆のある入居者が園芸を楽しめる場所が庭や屋上にある	4	3	2	1
	(20) 痴呆のある入居者が落ち着いて生活できるように、放送設備などの音量を低いレベルに抑えている	4	3	2	1
	(21) 痴呆のある入居者が落ち着いて生活できるように、共用空間でのテレビの音量や視聴時間を調整している	4	3	2	1
	(22) 居住棟の臭いを取り除く工夫をしている	4	3	2	1
	(23) 落ち着いた音楽や会話などを痴呆のある入居者の日常生活の中に取り入れている	4	3	2	1
	(24) 痴呆のある入居者になじみのある時代や文化を反映する絵画や装飾品を取り入れた環境づくりをしている	4	3	2	1
環境刺激への配慮	(25) 色調、家具、床や壁など施設全体のインテリアは統一がとれ、痴呆のある入居者に視覚的なミスマッチを感じさせないようにしている	4	3	2	1
	(26) 施設内には、痴呆のある入居者に生活を感じさせる香りがある(食べ物、コーヒー、新鮮な花の香りなど)	4	3	2	1
	(27) 痴呆のある入居者が昼夜の区別をしやすいうように、室内の明るさは意図的に昼は明るく、夜は抑えている	4	3	2	1
	(28) 痴呆のある入居者が、居室に思い出の品や写真が飾れるようにしている	4	3	2	1
	(29) 居住棟の共用部分には、スチールなどの事務的なものではない、家庭的な家具が置かれている	4	3	2	1
	(30) 居住棟では家庭的な雰囲気を保つために、施設の機器(カート、収納棚)を目のつきにくい場所に置いている	4	3	2	1
生活の支援継続性への	(31) 入居者の家族が訪ねてきたときに、落ち着いて話ができる場所を用意している	4	3	2	1
	(32) 痴呆のある入居者の生活歴や興味のあることについて、スタッフが情報を共有している	4	3	2	1
	(33) 痴呆のある入居者が興味を持っていたことを、日常の活動の中に生かすようにしている	4	3	2	1
	(34) 痴呆のある入居者にあわせて、入浴方法、時間、温度などに配慮している	4	3	2	1
	(35) 居室に入る前に、職員は扉をノックするようにしている	4	3	2	1
	(36) 痴呆のある入居者が居室の扉を閉めておくことを希望すれば、居室の扉を閉めることを認めている	4	3	2	1
プライバシーの確保	(37) 一日のうちに何度か居室から出るように、痴呆のある入居者に働きかけている	4	3	2	1
	(38) 入浴時には、入居者のプライバシーへの配慮を十分行っている	4	3	2	1
	(39) 痴呆のある入居者が少人数で使用するのに適した食堂やダイニングがある	4	3	2	1
	(40) 痴呆のある入居者の希望を取り入れて、自分の着たい服を選べるようにしている	4	3	2	1
	(41) 痴呆のある入居者にあわせて、食事のメニューを選択できるようにしている	4	3	2	1
	(42) 痴呆のある入居者がいる場所を選択できるように、居住棟の各所に椅子を置いている	4	3	2	1
自己選択への	(43) 痴呆のある入居者や家族の希望により、相部屋や個室を選択できるようにしている	4	3	2	1
	(44) 痴呆のある入居者にあわせて、居室の温度、空気、明るさを容易に調整できるようにしている	4	3	2	1
	(45) 痴呆のある入居者にあわせて、寝る時間、入浴の時間を調整できるようにしている	4	3	2	1
	(46) 玄関ホールや廊下に人が集まれるラウンジを設けている	4	3	2	1
	(47) 居住棟にさまざまな規模の交流の場を用意している(多くの椅子が置かれた部屋、小グループ用の部屋など)	4	3	2	1
	(48) 主要な活動の場に隣接して、椅子を配置して活動を眺めることができるようにしている	4	3	2	1
ふれあいの促進	(49) ダイニングやラウンジなどの椅子は会話しやすいように配置している	4	3	2	1
	(50) 痴呆のある入居者の社会的接触や交流を促進するさまざまなプログラムを用意している	4	3	2	1

### 個別配慮チェックリスト

問:個々の入居者の日常生活にどのような配慮をしていますか。以下の項目について、「4 いつもしている」～「1 全くしていない」の中から当てはまるものに一つ○をつけてください。

		4 いつも している	3 とき どき している	2 あまり して いない	1 全く して いない
生活歴の理解と交流促進	(1) 入居者になじみのある時代や文化を反映したものを施設内に置いている	4	3	2	1
	(2) 入居者が花や植物に触れられるようにしている	4	3	2	1
	(3) 入居者が庭やベランダに出て、季節感や自然の空気を感じられるようにしている	4	3	2	1
	(4) 入居者の興味のあることを、施設内での活動や役割に生かしている	4	3	2	1
	(5) 入居者の生活歴や興味のあることを、他のスタッフと情報を共有している	4	3	2	1
	(6) 入居者の思い出の品や写真を話題に取り入れた会話をしている	4	3	2	1
	(7) 施設内にある小道具を利用して、入居者和其他の入居者の交流を図っている	4	3	2	1
自己選択と自立への支援	(8) 居室やトイレなどが分かるように、サインや絵などの目印を活用している	4	3	2	1
	(9) 排泄や入浴をなるべく自分でできるように配置している	4	3	2	1
	(10) 入居者が衣服の整理をできるように、タンスなどを使いやすく工夫している	4	3	2	1
	(11) 入居者が毎朝自分の希望に合った衣服を選べるようにしている	4	3	2	1
	(12) 日常のレクリエーション活動には、入居者の意思を尊重して、参加したりしなかったりの選択ができるようにしている	4	3	2	1
	(13) 毎日の起床と就寝時間などは、ある程度入居者の希望を取り入れている	4	3	2	1
入居者周辺環境の調整	(14) 入居者が昼夜の区別をしやすいように、室内の明るさに気を配っている	4	3	2	1
	(15) 入居者にとって施設内の音が不快な場合、例えば、大きすぎるテレビの音、他の入居者の大声などにすぐ対応している	4	3	2	1
	(16) ある入居者に接している時も、他の利用者について視野に入れている	4	3	2	1
	(17) 入居者同士の人間関係に気を配りながら接している	4	3	2	1

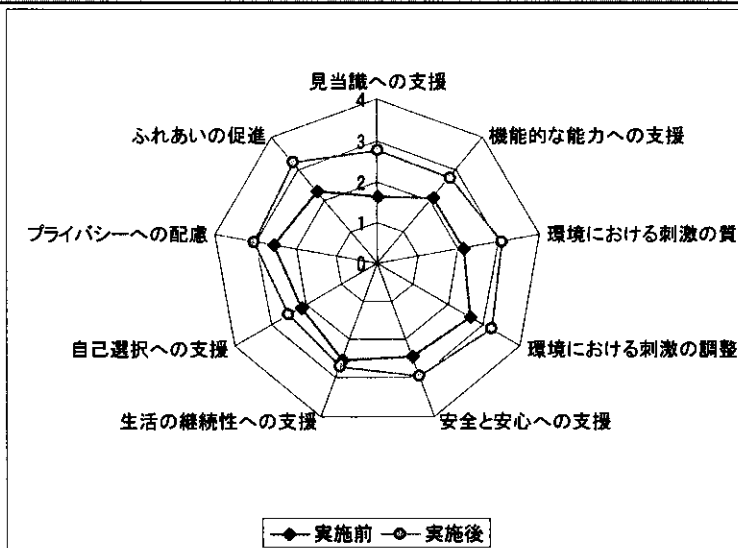
## チェックリストのまとめ方

### 痴呆性高齢者施設環境配慮尺度

**【事例】**

特別養護老人ホーム「たちばなホーム」(東京都墨田区)では、4つのフロアの平均得点を次元ごとに当てはめて、レーダーチャートに表しました。

施設環境づくりの取り組みの前後で、すべての次元で改善が見られ、特に「見当識への支援」「ふれあいの促進」「環境における刺激の質」が改善されたことがわかります。

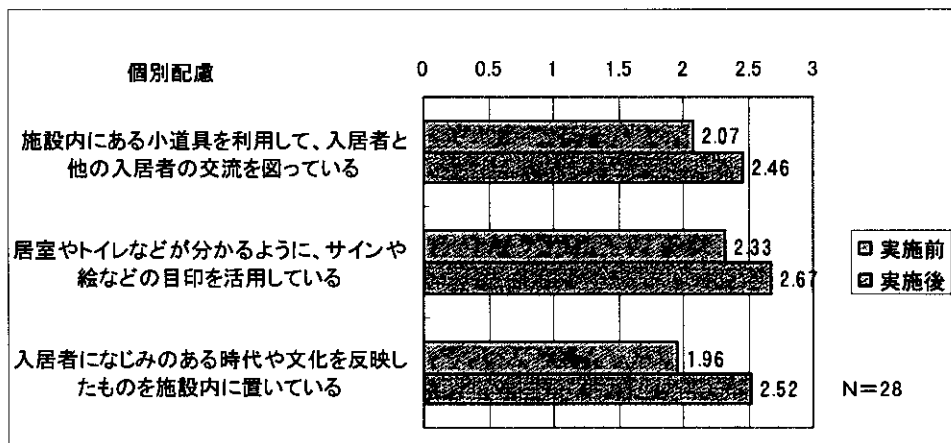


### 個別配慮チェックリスト

**【事例】**

「たちばなホーム」では、環境づくり前後をみると、実施後に個別配慮が高まるのがみられました。

このチェックリストも次元ごとに平均値を求め、前後の比較をすることもできます。



[オモテ]

No.



評価 [Oをつける]

O X ?!

撮影日時

年 月 日 時ごろ

~にとって [Oをつける]

①職員 ②入居者

③その他 ( )

~ということが

~と思った

こんな工夫ができるかも…

コメント

撮影場所 (箇所)

PEAP本版3次: 1・2・3・4・5・6・7・8・その他 (Oをつける)

[ウラ]

参加者ID

参加者プロフィール (該当するものひとつにOをつけてください)

1. キャプション評価に参加するのは何回目ですか?

- ① ( ) 回目 ②初めて参加

2. あなたの立場は?

- ①常勤職員 ②非常勤職員 ③利用者家族 ④ボランティア ⑤本人  
⑥その他 ( ) ←専門などあれば具体的に

3. あなたの性別は?

- ①男性 ②女性

4. あなたの年齢は?

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代

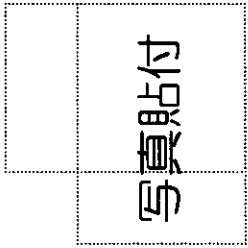
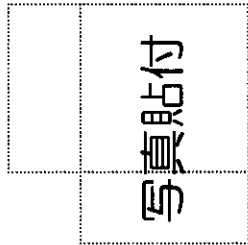
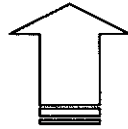
環境づくり事前事後シート

場所

目標 (方針)

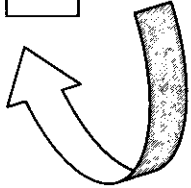
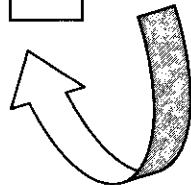
Before

After



課題や問題点だったこと

改善のポイント・工夫した点



#### 【参考文献】

1. 厚生科学研究費補助金 21世紀型医療開拓推進研究事業 平成13年度 研究報告書  
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成14年(2002)3月  
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
2. 厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 平成14年度 研究報告書  
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成15年(2003)3月  
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
3. 厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 平成15年度 研究報告書  
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成16年(2004)3月  
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
4. 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業 平成14年度 研究報告書  
「在宅痴呆性高齢者の環境適応の円滑化と介護負担軽減のための居住支援プログラムの開発に関する研究」  
平成15年(2003)3月 主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
5. 「痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり—実践に役立つ環境評価と整備手法—」  
児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編 2003年 彰国社

#### 【施設環境づくり検討グループ】

- 児玉 桂子 (日本社会事業大学 社会福祉学部教授)  
影山 優子 (日本社会事業大学 社会事業研究所研究員)  
下垣 光 (日本社会事業大学 社会福祉学部助教授)  
大島 千帆 (日本社会事業大学 社会事業研修所研究員)  
足立 啓 (和歌山大学 システム工学部教授)

#### 【研究協力】

- 鈴木みな子 (浦和大学・前墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム施設長)  
堀江 敬子 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)  
今野比奈子 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)  
大下 敏之 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)

このハンドブックは、厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業  
平成 15 年度事業の一環として、推進事業補助金により作成したものです。

---

痴呆性高齢者への環境支援指針（PEAP）を用いた施設環境づくり実践ハンドブック

平成 16 年（2004）3 月

発行 日本社会事業大学 児玉研究室

主任研究者 児玉桂子

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘 3-1-30

FAX 0424-96-3001

E-mail k.kodama@jcsu.ac.jp